

## 1 胴枯病

### A 生態と防除のねらい

- 1 病原菌は寒害などの気象災害や病害虫などによる損傷箇所から侵入するので、これらの誘因回避に努めるとともに、園地の選定や肥培管理に留意して樹勢維持を図る。
- 2 枝や幹部に加害する害虫の防除に努め、せん定や害虫食害痕などの傷口はゆ合剤の塗布を徹底する。

### B 耕種的防除法等

- 1 発生誘因の除去
  - (1) 適地の選定環境整備
    - 1) 土層が深く排水がよいこと。
    - 2) 防風対策に配慮する。
    - 3) 無病苗を植える。
  - (2) 凍害、日やけなど生理障害の発生防止
    - 1) 西南向き傾斜地に発生が多い。
    - 2) 肥培管理に注意し、枝の遅伸びをさせない。
    - 3) 白色塗布（ホワイトンパウダー等）で枝幹を保護する。
  - (3) 枝幹害虫の駆除
 

カミキリムシ類、コウモリガ、クリタマムシなどの防除を行う。
- 2 発病樹の処理
  - (1) 発生部位の完全除去
 

被害樹の早期発見に努め、せん定した枝、幹は園外に処分する。

### C 薬剤防除のポイント・注意事項等

使用時期	農薬系統・一般名	FRACコード
せん定整枝時及び 病患部削り取り直後	チオファネート系	1

## 2 炭疽病（実炭疽病）

### A 生態と防除のねらい

- 1 品種、園の環境条件によって発生が著しく異なり、夏に降雨が多いと被害も多くなる。品種では、概して「丹沢」、「伊吹」、「筑波」に発生が多い。
- 2 防除は耕種的防除に重点をおく。

### B 耕種的防除法等

- 1 枝葉が密生すると樹勢の低下や枝枯が発生し、病巣となる。病原菌の密度を下げるため、枯枝の発生が少なくなるよう適切な間伐、整枝を行うとともに肥培管理にも十分注意する。
- 2 収穫時の選果で、り病果をできるだけ取り除く。

### C 薬剤防除のポイント・注意事項等

使用時期	農薬系統・一般名	FRACコード
7月中旬～8月下旬	グアニジン類 ベンゾイミダゾール系	M7 1

### 3 黒色実腐病

#### A 生態と防除のねらい

- 1 果皮は黒変、果肉は黒変乾腐する。また、果皮の変色は見られず、果肉のみが黒変腐敗後、果皮の変色が始まる場合もある。
- 2 症状が進むと、果皮表面に黒い小さな瘤が形成される。

#### B 耕種的防除法等

適切な肥培管理やせん定、り病枝の除去により、樹勢強化に努める。

### 4 黒根立枯病

#### A 生態と防除のねらい

外見上正常に発芽、伸長し生育していた樹が梅雨明け頃から急激に萎凋し枯死する。土壌伝染性の病害である。

#### B 耕種的防除法等

樹勢衰弱樹に発生しやすいことから、排水不良、結果過多、肥料不足などにならないよう注意する。

### 5 モモノゴマダラノメイガ

#### A 生態と防除のねらい

- 1 樹上に残った毬果、粗皮下や樹皮の隙間に繭を作り越冬する。
- 2 年3世代発生するが、被害が大きいのは第2世代幼虫以降である。

#### B 耕種的防除法等

被害果および空のイガ、残った毬果は、園外に処分する。

#### C 薬剤防除のポイント・注意事項等

早生種では7月中旬から下旬、中晩生種では、8月中旬から下旬に防除の重点をおく。

使用時期	農薬系統・一般名	I R A Cコード
7月～8月	有機リン系	1 B
	ジアミド系	2 8
	スピノシン系	5

## 6 ネスジキノカワガ

### A 生態と防除のねらい

- 1 空のイガや粗皮下、樹皮の隙間に繭を作り越冬する。
- 2 年4～5世代発生するが、被害が大きいのは、6月下旬から7月中旬に発生する第2世代である。

### B 耕種的防除法等

- 1 被害果および空のイガ、残った毬果は、園外に処分する。
- 2 樹高を低くし、せん定により過繁茂を避ける。

### C 薬剤防除のポイント・注意事項等

6月下旬の被害発生に注意し、被害毬果を認めた場合は防除を行う。

使用時期	農薬系統・一般名	I R A Cコード
6月下旬	ネライストキシン系	1 4

## 7 クリシギゾウムシ

### A 生態と防除のねらい

- 1 クリシギゾウムシの被害は、標高400m以上の園地では早生種から晩生種まで見られ、被害も大きい。一方、標高300m以下の園地では晩生種以降で被害が見られるが、その被害は少ない。
- 2 クリシギゾウムシ被害多発地域では、9月上旬からクリ樹上で雌成虫が確認され、早生品種の「丹沢」では収穫中に、中生品種の「筑波」では収穫前に加害が開始される。
- 3 クリシギゾウムシは、落下した果実から脱出し、土中に繭をつくり越冬する。果実からの脱出は、9月中旬から見られる。

### B 耕種的防除法等

園内の病害虫等による被害果実を集めて園外で処分する。

### C 薬剤防除のポイント・注意事項等

- 1 雌成虫が産卵を始める時期の防除に重点をおく。
- 2 早生品種では、収穫期直前の8月下旬に薬剤散布を行う。
- 3 中生品種では、収穫期直前の9月上旬に薬剤散布を行う。
- 4 収穫期直前の薬剤散布となるため、使用する薬剤の収穫前日数に注意する。

使用時期	農薬系統・一般名	I R A Cコード
8月下旬（早生）	ピレスロイド系	3 A
9月上旬（中生）	ネオニコチノイド系	4 A

## 8 クリミガ

### A 生態と防除のねらい

クリミガは落葉内の繭で越冬する。

### B 耕種的防除法等

落葉を集め園外に処分する。

### C 薬剤防除のポイント・注意事項等

使用時期	農薬系統・一般名	I R A Cコード
8月下旬	ネオニコチノイド系	4 A

## 9 カツラマルカイガラムシ

### A 生態と防除のねらい

- 1 1 齢幼虫を主体に未成熟成虫まで越冬する。
- 2 園周辺のクヌギなどにも寄生する。

### B 耕種的防除法等

- 1 園周辺のクヌギなどが発生源とならないようにする。
- 2 天敵を保護し、密度を抑制する。

### C 薬剤防除のポイント・注意事項等

防除効果の比較的高い越冬期を重点に防除する。

使用時期	農薬系統・一般名	I R A Cコード
6月中旬～下旬	昆虫成長制御剤	1 6
7月上旬～下旬	有機リン系	1 B
1 2月上旬～2月	マシン油乳剤	なし

## 10 クリイガアブラムシ

### A 生態と防除のねらい

- 1 卵で越冬し、4月頃ふ化し増殖を始める。
- 2 6月に幼果の形成が始まるとこれに移動し、増殖する。

### B 耕種的防除法等

7月から8月の被害毬果や収穫後の落毬や被害果を集めて園外に処分する。

### C 薬剤防除のポイント・注意事項等

常発園では初期防除（6月下旬）に重点をおく。

使用時期	農薬系統・一般名	I R A Cコード
5月～8月	ネオニコチノイド系	4 A
	有機リン系	1 B

## 11 カミキリムシ類

### A 生態と防除のねらい

- 1 クリにはシロスジカミキリ、ミヤマカミキリ、ゴマダラカミキリなどが発生する。
- 2 発生の主体はシロスジカミキリで、樹幹の比較的低い部分に連続的に産卵する傾向がある。ミヤマカミキリは樹冠の比較的上部を加害し、ゴマダラカミキリは主幹の地際部へ産卵、食入する。

### B 耕種的防除法等

- 1 産卵前（5月中旬）肥料袋等を地上1～2mの主幹に巻き付けて産卵を防ぐ。しかし、この場合はモノゴマダラノメイガの越冬場所になるため、1月から2月に除去する。
- 2 7月上旬から8月上旬に産卵痕の発見に努め、樹皮下の卵を外側から木槌で叩き潰す。
- 3 幼虫の食入箇所を発見したら、木くずをとり除き、刺殺または捕殺する。

### C 薬剤防除のポイント・注意事項等

薬剤防除は産卵時期が長いので、産卵最盛期の6月から7月とふ化最盛期の7月から8月の2回に重点をおく。

使用時期	農薬系統・一般名	I R A Cコード
6月～8月	有機リン系混合剤	1 B・1 B

## 1 2 クリタマバチ

### A 生態と防除のねらい

- 1 被害は衰弱した樹やふところ枝などの弱小枝に多い傾向がある。
- 2 本県では全地域に本種の有力な天敵であるチュウゴクオナガコバチが分布している。

### B 耕種的防除法等

- 1 1月から3月にふところ枝および弱小枝のせん定を行い、適正間伐によって結果母枝の充実を図る。
- 2 ゴール内に残っているチュウゴクオナガコバチを保護利用するため、せん定残さは天敵の羽化時期である4月中下旬まで園内に残しておき、4月下旬以降は直ちに園外に処分する。
- 3 弱小枝に被害が多い傾向にあるため、肥培管理を徹底し、樹勢の強化に努める。

## 1 3 クリタマムシ

### A 生態と防除のねらい

- 1 寄生蜂の寄生率が高いため、基本的に耕種的防除を主体とする。
- 2 常発園では、5月上旬より新葉への加害痕が認められる。

### B 耕種的防除法等

- 1 卵、幼虫の早期発見に努め、削り取りを行う。
- 2 被害枯死樹や被害枝は園内に放置せず園外に処分する。
- 3 被害の比較的少ない「筑波」、「銀寄」を植栽する。

## 1 4 コウモリガ

### A 生態と防除のねらい

- 1 クリ以外にブドウ、カキ、モモ、ナシなど、草本も含め寄主範囲は広い。
- 2 成虫は8月中旬から11月上旬に羽化し、夜間に飛翔しながら空中から多数の卵を産み落とす。
- 3 卵で越冬し、翌年の5月頃にふ化し、若令幼虫期は、草本類を食べ、成長すると木本類に移り、せん孔加害する。しかし、時には最初から木本類を加害するものもある。
- 4 食入口は木屑や糞を糸で綴り合わせ袋状の物で覆われている。

### B 耕種的防除法等

園周辺の草木の繁茂を防ぐ。特にイタリアンライグラスを播種している所では、株元周辺部は刈り取る。

### C 薬剤防除のポイント・注意事項等

使用時期	農薬系統・一般名	IRACコード
5月上旬 (幼虫食入期)	有機リン系	1B